

令和4年度

病院事業報告



熊本赤十字病院

JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL



熊本赤十字病院の基本理念

人道・博愛・奉仕の実践

私たちは、赤十字精神のもと、医療や救援を通じて人と社会に寄り添います。



熊本赤十字病院理念に基づく基本方針

救急医療

救急医療を私たちの原点としてとらえ、全ての人に手を差し伸べます。

高度医療

診療の専門性を高め、時代に即した安全で質の高い医療を提供します。

人材育成

教育・研修を推進し、人間性豊かで将来を担う医療人を育成します。

地域連携

地域全体で協力し、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献します。

医療救援

地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に取り組みます。

魅力創出

働きがいのある職場づくりを通して、ぬくもりのある病院を目指します。



患者さんの権利と責務について

〈患者さんの権利〉

1. 患者さんは、安全で良質な医療を公平公正に受ける権利があります。
2. 患者さんは、常にその人格を尊重される権利があります。
3. 患者さんは、診療に関して十分な説明と情報の提供を受け、理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さんは、自分の治療計画を立てる過程に参加し、自分の意思を表明し、自ら決定する権利があります。
5. 患者さんは、自分の病気の診断や治療について、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
6. 患者さんは、個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 患者さんは、診療に必要な自分自身の健康状態に関する情報を、できるだけ正確に医療提供者に伝え、治療に協力する責務があります。
2. 患者さんは、すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、病院の規則を守り、医療の提供の妨げになる暴力行為や迷惑行為を行わない責務があります。
3. 患者さんは、適切な医療を維持するため、提供を受けた医療に対する診療費を支払う責務があります。

当院では、「日本赤十字社の保有する個人情報保護規程」に基づき、職員を対象とした「熊本赤十字病院個人情報保護規程」を作成し、個人情報保護の確実な履行に努めております。

令和4年度も、職員に対し院内説明会の実施や講演会を開催するなど個人情報の適切な取り扱いが確保できるよう努め、また、患者さんに対しては、当院の個人情報の保護に対する考え方を示した「個人情報の保護についてのお知らせ」を正面玄関及び救命救急センターの入口に立て看板として設置するとともに、各部署へのポスター掲示並びに入院・外来パンフレットへのリーフレット追加などを通じて、広く周知を行いました。

以下、当院ホームページでも公表しております「個人情報保護方針」及び「患者さんの個人情報の利用目的」について示します。



個人情報保護方針

当院は、「人道・博愛・奉仕の実践」という基本理念のもと、診療業務を行っております。

より安全で質の高い医療を提供していくためには、患者さんに関する様々な医療情報が必要です。

当院では、患者さんに安心して情報を提供していただくため、患者さんからお預かりした個人情報を安全に守るべきことを認識し、以下に個人情報保護方針を定め、確実な履行に務めます。

1. 個人情報の収集・利用・提供

個人情報を保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集、利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。

2. 個人情報の安全対策

個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講じます。万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。

3. 個人情報の確認・訂正・利用停止

当該本人（患者さん）等からの内容の確認・訂正あるいは利用停止を求められた場合には、当院の内部規則により、調査の上適切に対応します。

4. 個人情報に関する法令・規範の遵守

個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。

5. 教育および継続的改善

個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。

6. 個人情報の提供・開示

患者さんの個人情報について患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の内部規則に従って対応いたします。

7. 問い合わせ窓口

個人情報に関するお問い合わせは、以下の個人情報相談窓口においてお受けいたします。

「個人情報保護相談窓口」 医療社会事業課



患者さんの個人情報の利用目的

1. 院内での利用

1. 患者さんに提供する医療サービス
2. 医療保険事務
3. 入退院等の病棟管理
4. 会計・経理
5. 医療事故等あるいは事故未然防止等の報告、分析
6. 患者さんへの医療サービスの向上
7. 院内医療実習への協力
8. 医療の質の向上を目的とした院内症例検討、研究
9. その他患者さんにかかる管理運営業務

2. 院外への情報提供としての利用

1. 他の病院、診療所、助産院、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携
2. 他の医療機関等からの照会への回答
3. 患者さんの診療のため、外部の医師等の意見・助言を求める場合
4. 検体検査等の業務委託
5. 医療支援に関する患者さんご本人へのご案内
6. ご家族等への病状説明
7. 保険事務の委託
8. 審査支払機関へのレセプトの提供
9. 審査支払機関または保険者からの照会への回答
10. 審査支払機関または保険者への照会
11. 事業者等から委託を受けた健康診断にかかる事業者等へのその結果通知
12. 医師賠償保険等にかかる医療に関する専門団体や保険会社等への相談や届出
13. 国または地方公共団体等への公益性を優先する場合の情報提供
14. その他患者さんへの医療保険事務に関する利用

3. その他の利用

1. 医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
2. 外部監査機関への情報提供
3. 医学研究及び学術研究（学会発表等）のための資料

令和4年度病院のあゆみ

令和4年4月

- 1日 令和4年度日本赤十字社熊本県支部入社式（病院403多目的ホール）
- 〃 令和4年度新規採用職員研修会（～4/4）
- 〃 組織改正（新設）
 - 「第三循環器内科部」「不整脈治療科部」「リハビリテーション科部 第二リハビリテーション課」
 - 「検体検査課 輸血・移植検査係」「生理検査課 心血管カテーテル検査係」
 - 「企画開発課 経営企画係」
- 生理検査課「第一生理検査係」から「循環生理検査係」へ名称変更
- 生理検査課「第二生理検査係」から「神経・呼吸機能検査係」へ名称変更
- 「第二脳神経内科部」「第三産婦人科部」「入院業務課 DPC係」を廃止
- 〃 「経営戦略室」設置

5月

- 1日 創立記念日
- 12日 看護の日(ナイチンゲール像の清掃・展示)
- 24日 熊本県ヘリ救急搬送運航調整委員会症例検討部会
ドクターヘリ及び防災消防ヘリの救急搬送に係る症例検討

6月

- 1日 熊本赤十字病院看護師特定行為研修（救急領域パッケージ：第2期生2名）研修開始

7月

- 1日 「臨床工学課 臨床工学係」を新設

10月

- 1日 移植医療県民公開講座2022「One teamで一步前へ！」
- 〃 「DX推進委員会」設置
- 6～7日 日赤医学会総会（旭川）
- 22日 九州・沖縄形成外科学会学術集会／大会長 形成外科・黒川正人

11月

- 1日 「がん集学的治療センター」設置

12月

- 1日 小児在宅医療支援外来「すこやか外来」設置
- 28日 仕事納め

令和5年1月

- 4日 仕事始め式
- 26日 会計実地検査（会計検査院）
- 28日 九州沖縄ブロックDMAT実動訓練に伴う院内災害対策本部立ち上げ訓練

2月

- 7日 令和4年度日本赤十字社熊本県支部評議委員会（熊本テルサ）
- 22日 「頭痛の日」グリーンライトアップ
- 25日 医療チーム活動訓練
- 26日 熊本赤十字病院看護師特定行為研修修了式（救急領域パッケージ：第2期生2名）

3月

- 15日 個別指導、適時調査（九州厚生局）
- 26日 「てんかん」啓発キャンペーン パープルライトアップ
- 31日 令和4年度末退職者辞令交付式

令和4年度 院内開催講演会・研修会（抜粋）

開催日	研修会名	内容
4/21	昇任者研修会（医師部長・課長・師長）	幹部講話（院長・看護部長・事務部長）
4/25	昇任者研修会（医師副部長・係）	幹部講話（院長・看護部長・事務部長）
5/7	第50回熊本赤十字病院小児症例検討会	特別講演「小児科医が知っておきたいココロのはなし～ストレス社会でこどもを診るということ～」／東京都立小児総合医療センター 田邊のぞみ、「国際保健における医療の質～ラオス医療の質向上、病院機能評価の体制作りの取り組み～」／世界保健機関ラオス国
5/26	第1回 I C T 地域連携カンファレ	院内発生COVID-19対応について
5/27	日赤熊本常備救護班基礎研修会	日赤の救護活動、災害概論、グループワーク、基礎行動訓練、講義
6/2	新入職員新規学卒者 追加研修②	ハラスメント・コンプライアンス／高島法律事務所・弁護士 高島剛一 コミュニケーション・アサーション／肥銀ビジネス教育(株) 今村ゆか
6/6	第1回移植医療に関するWEB講演会 (熊本県臓器提供施設連携体制構)	奄美大島から見える景色～医療資源が限られた地域からの脳死臓器提供～ ／鹿児島県立大島病院 救命救急センター長 中村健太郎
6/15	第1回保険診療に関する講習会	令和4年度診療報酬改定について／ニチイ学館 増永清子
6/17	第1回医療安全研修会	チーム医療へのいくつかの教え～T e a m S T E P P E Sを中心に～ ／近畿大学病院安全管理部 教授 辰巳陽一
6/19	熊本赤十字病院緩和ケア研修会	
6/24	新入職員新規学卒者 追加研修③	ワールドカフェ、メンタルヘルス ／KMJメンタルアシスト 公認心理師・松下弘子
7/2	第1回熊本小児救急集中治療研究会G	症例報告「箸による眼窩穿通外傷」「新型コロナワクチン接種後の心膜心筋炎」、 特別講演「小児の気道病変の管理」／埼玉県立小児医療センター 集中治療科 科長 新
7/16	K U M A M O T O G I M 2022	特別講義「フィジカル診断ケース集」 ／群星沖縄臨床研修センター センター長 徳田安春
7/21	第2回移植医療に関するWEB講演会 (熊本県臓器提供施設連携体制構)	コロナ禍における家族ケア～ドナーの尊厳を守り想いを受け取る～ ／筑波大学附属病院 臨床医療管理部 公認心理士 平井理心
8/1	臨床研修卒業生 凱旋講演会	海外留学挑戦 ～そして生き残るために私が今伝えられること～ ／カナダ トロント大学 スーパーフェロー 中村彰宏
8/18	新入職員新規学卒者 追加研修④	医療制度・診療報酬／入院係長・東祥大 医療安全について／岡部真勝法律事務所・岡部真勝 接遇研修／人材教育研究所With early・中野由美
8/18	外来化学療法地域連携研修会	ASCOガイドラインに基づいた抗癌剤支持療法実践のポイントと免疫チェックポイント阻害剤の留意点・事例検討
8/25	日赤医療連携フォーラム	テーマ「心不全治療は多職種で！」 心不全患者に対する A C P について、心不全の問題を解決する多職種ハートチーム、県内唯一の人工心臓植込み施設で経験！
8/25	第2回 I C T 地域連携カンファレ	コロナ第6派～第7派での感染対策～オミクロン株B.A.5 流行期について～
9/6	第1回腎代替療法に関する講習会	腎移植の現状、移植前外来の現状、献腎移植、移植Coについて
9/29	医療連携研修会「せん妄予防・対策ケア」	せん妄症例検討
10/4	第1回児童虐待対応に関するWEB講演会	子ども虐待対応プログラムJaMSCAN BEAMS Stage I ／社会医療法人 聖ルチア会 聖ルチア病院 神菌淳司
10/7	第2回感染対策研修会	事例から考える新興・再興感染症への備え方 ／成田赤十字病院 感染症科部長 馳 亮太
10/21	総合鏡視下手術センター講演会	ダヴィンチによる大腸手術の現状と今後の展望 ／静岡県立静岡がんセンター 大腸外科部長 塩見明生
10/28	N S T 研修会（熊本東部地区NSTゼミナ-）	Skill Mix型チーム医療による周術期支援 ～DREAMを達成するために、術前栄養リハビリ介入の実践～ ／済生会横浜市東部病院 患者支援センター センター長兼栄養部部長 谷口英喜
11/5	熊本赤十字病院 J M E C C（内科救急・ICLS講習会）	一次救命処置、気管挿管と除細動、心停止への対応、内科救急総論等 ／済生会熊本病院 救急総合診療センター医長 福永崇、他
11/10	認知症に関する院内講演会	認知症患者ケアに関する講演会 ／映画「ばけますからよろしくお願ひします！」 ドキュメンタリー映画監督 信友直子

開催日	研修会名	内容
11/12	臨床倫理研修会	MCD (Moral Case Deliberation) について ／熊本大学大学院生命倫理学分野 教授 門岡康弘
11/16	骨転移治療研修会	テーマ「攻める骨転移治療！」
11/17	新入職員新規学卒者 追加研修⑤	モチベーションアップ研修／肥銀ビジネス教育(株) 鶴田陽子
11/29	第3回移植医療に関する講演会 (熊本県臓器提供施設連携体制構築事業)	「小児腎不全と腎移植」 小児慢性腎臓病、小児末期腎不全、先天性腎尿路異常 (CAKUT)、小児腎移植を中心とした小児腎代替療法
12/7	日赤医療連携フォーラム	テーマ「地域でともに支えるために～日赤産婦人科の今を伝える～」／ウロギネ外来スタート半年の報告、セミオープンシステムのすすめ、切れ目のない妊娠・出産・育児支援、産婦人科領域に見る小児循環器疾患～心雑音の話題を中心に～
12/8	第3回 ICT 地域連携カンファレ	COVID-19院内発生対応シミュレーション (病棟発生を想定した机上訓練)
1/20	第4回移植医療に関する講演会 (熊本県臓器提供施設連携体制構築事業)	How COVID-19 Affected Organ Donation & Transplantation in the United States ／カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 准教授 Joyce A Trompeta
1/24	熊本赤十字病院薬剤部薬薬連携セミナー	当院における内服抗菌薬の処方動向と適正使用の取り組み、外来抗菌薬の処方の論理
1/26、1/31	管理職研修会	タイムマネジメントについて／(株)インソース 講師・竹田浩二
2/9	新入職員新規学卒者 追加研修⑥	フォロー&ステップアップ研修／肥銀ビジネス教育(株) 鶴田陽子
2/15	日赤医療連携フォーラム	テーマ「For Your Heart小さく治す日赤の弁膜症治療」 最近の弁膜症手術～MICSでQOLを改善する～、高齢化社会における低侵襲治療～TAVI～、当院の疑義紹介からみたDOAC処方のポイント
2/18	心停止下臓器提供手術室対応シミュレーション (臓器提供施設連携体制構築事業)	心停止下臓器提供までの流れ、心停止下臓器提供時の手術室の対応について (シミュレーション)
2/21	第2回腎代替療法に関する講習会	腎代替療法の概要 (血液透析、腹膜透析、腎移植)、療法選択外来のコツ (ACP、腹膜透析)、移植外来の実際
2/24	第5回移植医療に関するWEB講演会 (熊本県臓器提供施設連携体制構築事業)	臓器移植推進に向けた行政の取り組み ／厚生労働省 移植医療対策推進室 室長補佐 吉川美喜子
3/9	第4回 ICT 地域連携カンファレンス	コロナ第8波感染対策の振り返り、各施設における感染症発生状況・抗菌薬使用状況・手指消毒量の推移

1 概要

- (1) 名称 熊本赤十字病院
- (2) 所在地 熊本市東区長嶺南二丁目1番1号
- (3) 開設年月日 昭和19年4月（現在地移転 昭和50年4月30日）
- (4) 許可病床数 一般 490床（平成24年5月1日～）
- (5) 標榜診療科 内科 腎臓内科 糖尿病内科 リウマチ科 血液・腫瘍内科 精神腫瘍科
(32科) 脳神経内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科
呼吸器外科 乳腺内分泌外科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科
小児外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科
リハビリテーション科 放射線科 放射線治療科 麻酔科 歯科
歯科口腔外科 救急科 病理診断科

2 施設認定状況

令和5年4月1日現在

(1) 医療機関の指定等

救命救急センター
救急告示病院
小児救命救急センター
小児救急医療拠点病院
熊本県ドクターヘリ基地病院
基幹災害拠点病院
熊本DMAT指定病院
臨床研修指定病院
地域医療支援病院
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
健康保険医療機関指定病院
国民健康保険療養取扱指定病院
生活保護指定医療機関
結核指定医療機関
身体障害者福祉法による更生医療指定病院
児童福祉法による育成医療養育医療指定病院
母体保護法による医療指定病院
労働者災害補償保険法による医療指定病院
特定疾患治療研究医療機関
小児慢性特定疾患治療研究医療機関
児童福祉施設等の措置医療機関
原子爆弾被爆者の一般疾病指定医療機関
身体障害者作業療法の施設基準承認病院
身体障害者運動療法の施設基準承認病院

(2) 学会専門医等施設認定

【基本領域専門研修プログラム】

(基幹施設)

内科 産婦人科 救急科 総合診療科 外科

(連携施設)

内科 産婦人科 救急科 総合診療科 外科 小児科 整形外科 脳神経外科 形成外科
皮膚科 泌尿器科 眼科 耳鼻科 放射線科 麻酔科 病理 リハビリテーション科

【Subspecialty 領域専門医】

日本消化器病学会認定施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本呼吸器学会認定施設

日本血液学会認定専門研修認定施設

日本腎臓学会研修施設

日本感染症学会専門医制度認定研修施設

日本神経学会専門医制度教育施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

日本小児外科学会教育関連施設

日本リウマチ学会教育施設

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設

日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設

生殖医療専門医制度研修連携施設

日本放射線腫瘍学会認定施設

日本手外科学会研修施設

日本集中治療医学会専門医研修施設 集中治療部・小児集中治療室

【その他教育施設】

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本核医学会専門医教育病院

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院

日本臨床細胞学会認定施設

日本IVR学会専門医修練施設

日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設B

日本脈管学会認定研修施設

日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療後期研修プログラム施設

日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本胆道学会指導施設

日本乳癌学会関連施設

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
 日本航空医療学会指定施設
 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
 日本認知症学会教育施設
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
 日本心臓血管麻酔専門医認定施設
 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
 日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
 日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
 日本外傷外科学会外傷専門医研修施設
 日本頭痛学会認定教育施設
 日本臨床工学技士会認定臨床実習指導施設
 認定輸血検査技師制度指定施設
 日本脳神経外傷学会認定研修施設
 日本急性血液浄化学会認定指定施設
 日本病院総合診療医学会病院総合診療専門医研修施設
 日本東洋医学会研修施設
 腎移植施設

【医療チーム】

日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼働施設
 日本臨床栄養代謝学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設

【実施施設等】

植込型補助人工心臓実施施設（成人）
 腹部ステントグラフト実施施設
 胸部ステントグラフト実施施設
 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術〔クライオバルーン(Arctic Front Advance)〕実施施設
 経皮的カテーテル心筋焼灼術〔ホットバルーン(SATAKE・HotBalloonシステム)〕実施施設
 経皮的カテーテル心筋焼灼術〔レーザーバルーン(HeartLight)〕実施施設
 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
 日本形成外科学会乳房増大エキスパンダー及びインプラント実施施設
 子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘手術登録施設
 日本脳卒中学会一次脳卒中センター

(3) 第三者機関評価認定

病院機能評価認定病院 3rdG Ver.2.0（機能種別：一般病院2）及び
 付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）
 卒後臨床研修評価機構臨床研修評価認定病院
 ISO15189認定病院

(4) 厚生労働省告示に基づく承認事項

- ◆DPC（診断群分類別包括評価制度）対象病院
- ◆入院基本料 急性期一般入院料 1
- ◆入院基本料加算
 - 急性期充実体制加算
 - 臨床研修病院入院診療加算
 - 救急医療管理加算
 - 超急性期脳卒中加算
 - 妊産婦緊急搬送入院加算
 - 診療録管理体制加算 1
 - 医師事務作業補助体制加算1（15対1）
 - 急性期看護補助体制加算（25対1・看護補助者5割以上）
 - 夜間100対1急性期看護補助体制加算
 - 夜間看護体制加算
 - 看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1）
 - 療養環境加算
 - 重症者等療養環境特別加算
 - 無菌治療室管理加算 2
 - がん拠点病院加算
 - 栄養サポートチーム加算
 - 医療安全対策加算 1
 - 医療安全対策地域連携加算 1
 - 感染対策向上加算1
 - 患者サポート体制充実加算
 - 重症患者初期支援充実加算
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
 - ハイリスク妊娠管理加算
 - ハイリスク分娩管理加算
 - 呼吸ケアチーム加算
 - 後発医薬品使用体制加算 1
 - 病棟薬剤業務実施加算 1、 2
 - データ提出加算 2
 - 入退院支援加算 1
 - 地域連携診療計画加算
 - 入院時支援加算
 - 認知症ケア加算 1
 - せん妄ハイリスク患者ケア加算
 - 精神疾患診療体制加算 1、 2
 - 地域医療体制確保加算
- ◆特定入院料
 - 救命救急入院料 1（充実段階 S、小児加算）
 - 特定集中治療室管理料 2（小児加算）
 - （早期離床・リハビリテーション加算）
 - 脳卒中ケアユニット入院医療管理料

	小児特定集中治療室管理料 (早期離床・リハビリテーション加算) (早期栄養介入管理加算)
	小児入院医療管理料1 (プレイルーム加算)
	養育支援体制加算
	時間外受入体制強化加算
	看護職員処遇改善評価料
◆入院時食事療養	入院時食事療養(1)
◆医学管理	外来栄養食事指導料の注2
	心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)
	心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)
	慢性維持透析患者外来医学管理料(腎代替療法実績加算)
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	がん患者指導管理料ハ
	がん患者指導管理料ニ
	移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)
	小児運動器疾患指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	下肢創傷処置管理料
	地域連携小児夜間・休日診療料2
	院内トリアージ実施料
	外来リハビリテーション診療料
	外来放射線照射診療料
	外来腫瘍化学療法診療料1
	連携充実加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	がん治療連携管理料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	ハイリスク妊産婦連携指導料1
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料1
	医療機器安全管理料2
◆在宅	在宅患者訪問看護・指導料
	同一建物居住者訪問看護・指導料
	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料

	持続血糖測定器加算 (間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 及び皮下連続式グルコース測定
◆検査	造血器腫瘍遺伝子検査 骨髄微小残存病変量測定 BRCA1/2遺伝子検査 1 腫瘍細胞を検体とするもの BRCA1/2遺伝子検査 2 血液を検体とするもの 先天性代謝異常症検査 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体 (抗体特異性同定検査) HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 検体検査管理加算(Ⅰ) 検体検査管理加算(Ⅳ) 国際標準検査管理加算 植込型心電図検査 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験 神経学的検査 コンタクトレンズ検査料1 小児食物アレルギー負荷検査 CT透視下気管支鏡検査加算
◆画像診断	画像診断管理加算2 CT撮影及びMRI撮影 冠動脈CT撮影加算 外傷全身CT加算 大腸CT撮影加算 心臓MRI撮影加算 乳房MRI撮影加算 小児鎮静下MRI撮影加算 頭部MRI撮影加算 肝エラストグラフィ加算
◆投薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
◆注射	外来化学療法加算1 連携充実加算 無菌製剤処理料
◆リハビリテーション	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算) 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算) 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算) 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算) 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算) がん患者リハビリテーション料 リンパ浮腫複合的治療料

- ◆処置
- 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算 1、
時間外加算 1、深夜加算 1
 - 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
 - エタノールの局所注入（甲状腺）
 - エタノールの局所注入（副甲状腺）
 - 人工腎臓 1
 - 導入期加算 3
 - 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 - 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ◆手術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6
（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術
 - 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算 1、
時間外加算 1、深夜加算 1
 - 皮膚移植術（死体）
 - 自家脂肪注入
 - 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 - 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
 - 後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
 - 脊髄刺激装置植込術または脊髄刺激装置交換術
 - 内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
 - 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及び 2
 - 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）
及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
 - ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 - 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除
又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
 - 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、
十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 - 経皮的冠動脈形成術
 - 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
 - 経皮的冠動脈形成術
（エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）

経皮的冠動脈ステント留置術
胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル大動脈弁置換術
胸腔鏡下弁置換術
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
（リードレスペースメーカーの場合）
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び
経静脈電極拔去術（レーザーシースを用いるもの）
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び
両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
補助人工心臓
植込型補助人工心臓（非拍動流型）
経皮の大動脈遮断術
経皮の下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)）
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)）
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胆管悪性腫瘍手術
（臍頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
体外衝撃波胆石破碎術（一連につき）
腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、
2区域切除及び3区域切除以上のもの）
体外衝撃波膵石破碎術（一連につき）
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）
	同種死体腎移植術
	生体腎移植術
	腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 （子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
	体外式膜型人工肺管理料
	輸血管管理料Ⅰ 輸血適正使用加算
	同種クリオプレシピテート作製術
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
◆麻酔	麻酔管理料(Ⅰ) 周術期薬剤管理加算
	麻酔管理料(Ⅱ) 周術期薬剤管理加算
◆放射線治療	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算
	高エネルギー放射線治療
	1回線量増加加算
	強度変調放射線治療(IMRT)
	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
	直線加速器による定位放射線治療
◆病理	病理診断管理加算 1 悪性腫瘍病理組織標本加算
◆酸素及び窒素の価格	酸素の購入単価
◆歯科	クラウン・ブリッジ維持管理料
	CAD/CAM冠

3 沿革

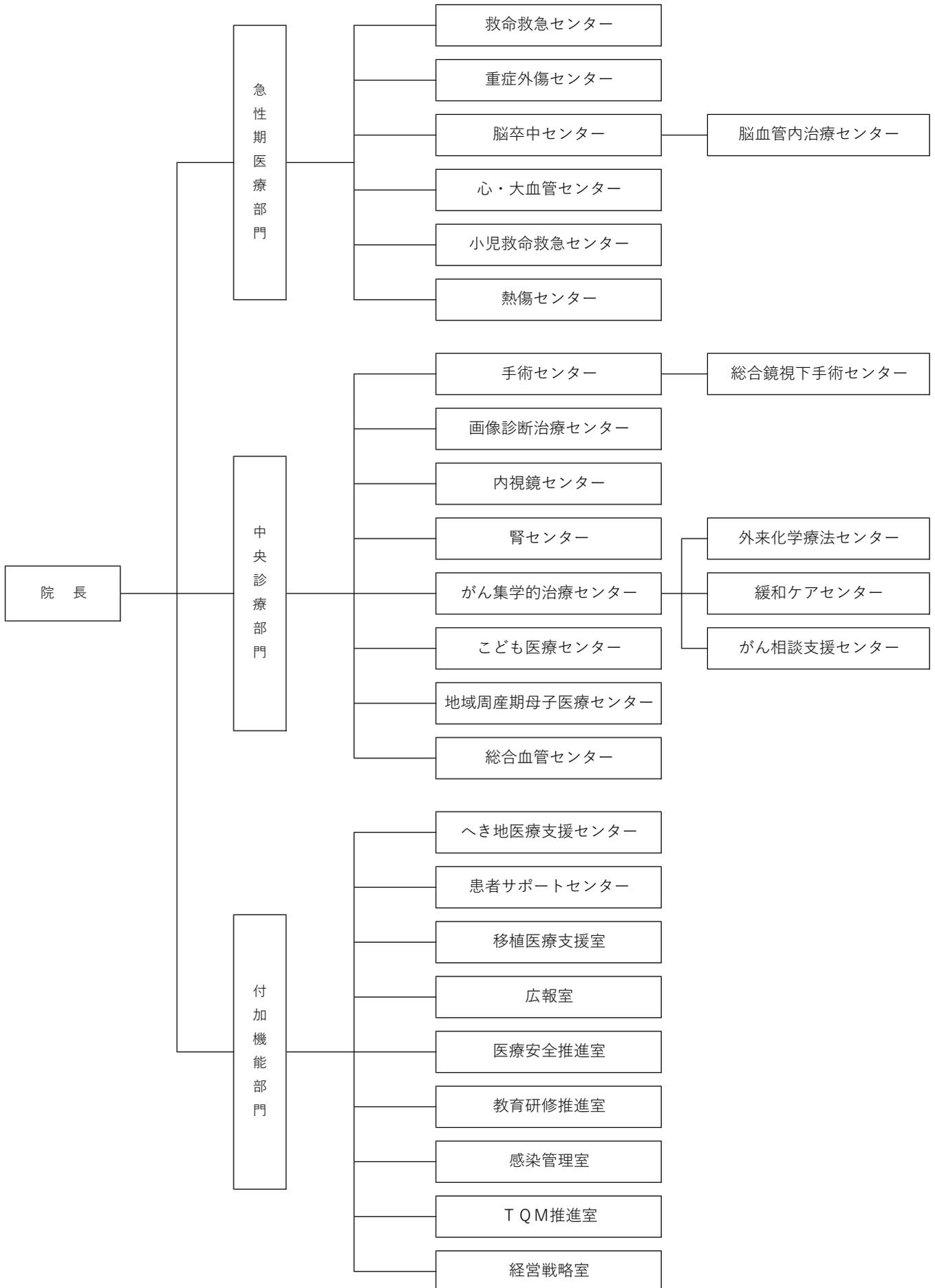
	年	月		
昭和	19.	4	熊本市四軒町18番地に日本赤十字社熊本支部診療所として開設（37床）	
	20.	7	戦災にて焼失。診療所を熊本支部に移設	
	25.	2	焼失跡地への建築工事竣工。熊本赤十字病院開設（53床）	
	25.	10	生活保護法における医療機関の指定	
	26.	10	結核予防法における医療機関の指定	
	26.	12	優生保護法における医療機関『指定医』の指定	
	27.	5	第3病棟増築工事竣工（記念病棟23床、本館5床増、旧病棟1床減、病床数合計80床）	
	27.	8	完全給食、完全看護の許可	
	28.	2	「日本赤十字社熊本支部」を「日本赤十字社熊本県支部」に改称	
	29.	5	一部老朽化に伴い第2病棟4床減床（76床）	
	29.	5	看護婦宿舎新築	
	30.	3	第1病棟・調理室増築工事竣工（第1病棟35床、旧病棟4床増、病床数合計115床）	
	31.	4	本館に3床を増床し、第1病棟4床と第2病棟10床を減床（104床）	
	31.	11	記念病棟増築工事竣工（記念病棟36床、病床数合計140床）	
	33.	4	赤十字看護婦の養成を福岡赤十字病院高等看護学院に委託	
	33.	9	記念病棟を結核病棟に変更	
	35.	10	原子爆弾被爆者医療一般疾病医療機関の指定	
	40.	4	町名変更により、水道町7-5番地となる	
	40.	12	救急告示病院として救急医療を開始	
	41.	1	救急告示病院の指定	
	48.	4	熊本県知事より開設許可（長嶺町：300床）	
	50.	3	熊本市長嶺町への移転新築工事竣工	
	50.	5	長嶺町2255番209へ移転。結核病棟を廃止し186床で開院	
	50.	5	救急医療センター開設	
	50.	8	300床稼働	
	51.	5	救急医療センターに切断四肢（指）再接着センター併設	
	51.	11	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 病院ご視察	
	53.	6	北病棟（病院別館）新築工事竣工	
	53.	6	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 落成式ご臨席	
	53.	7	北病棟（病院別館）150床増床（450床）	
	55.	1	総合病院の認可	
	55.	3	救命救急センター増築工事竣工	
	58.	9	第一回救急医療功労者厚生大臣表彰	
	58.	10	医事業務にコンピュータシステム導入	
	60.	8	会計・用度業務にコンピュータシステム導入	
	62.	11	中央診療部門増改築工事竣工	
	63.	12	腎センターを設置し、当院初の腎移植実施	
	平成	元.	5	日本赤十字社名誉副総裁 高円宮妃殿下 病院ご視察
		元.	9	栄養管理業務にコンピュータシステム導入
		2.	9	内科外来にコンピュータシステム導入
		2.	9	熊本県角膜・腎臓バンク協会事務局、県より移管
		3.	4	小児病棟に訪問学級を開設
		3.	7	循環器科、呼吸器科、消化器科を標榜
		4.	3	熊本県救急自動車医師看護師同乗及びホットラインシステム事業運用開始
		4.	3	熊本県医療審議会において30床の増床申請承認
		4.	10	28床増床（478床）
		5.	10	熊本県腎移植推進情報センター設置
6.		3	国民生活センター「危害情報システム」稼働	
7.		1	阪神淡路大震災に対する医療救護を展開（1月18日～2月27日）	
8.		4	臨床研修病院の指定	
8.		8	全診療科の再診予約診療制を開始	
8.	10	にっせき総合情報誌「Dr. CROSS」創刊		

8. 12 災害拠点病院（基幹災害医療センター）の指定
9. 2 町名変更により、長嶺南二丁目1番1号となる
9. 3 医療法改正に伴い、理学療法科をリハビリテーション科へ変更
9. 8 日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」建設工事竣工
10. 3 熊本赤十字病院全面移転新築工事第一期竣工（本館）
10. 5 一期工事竣工に伴い開院式
10. 5 熱傷病床（BICU）2床増床（480床）
10. 5 オーダリングシステム導入
11. 2 熊本赤十字病院全面移転新築工事第二期竣工（管理棟）
11. 3 日本赤十字社名誉副総裁 秋篠宮妃殿下 病院ご視察・日赤熊本グランドオープン記念式典ご臨席
11. 10 慢性疾患児家族宿泊施設「アンリーハウス」新築工事竣工
12. 4 日赤熊本在宅サービスステーション開設
12. 6 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」配備
12. 7 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を九州沖縄サミット救護のため沖縄県に派遣
12. 11 国際医療救援部を設置
12. 11 日本赤十字社名誉副総裁 三笠宮寛仁親王妃殿下 病院ご視察
13. 5 特定集中治療室（4床）を整備
13. 11 化学災害用除染設備を整備
13. 12 ホームページ開設
14. 8 総合グラウンド整備工事竣工
14. 9 第二ヘリポート竣工
15. 2 遠隔画像診断支援システム運用開始
15. 3 総合医療情報システム（オーダリング・医事システム・画像ファイリングシステム・各部門システム）運用開始
15. 5 （財）日本医療機能評価機構『一般病院種別B』の認定取得
15. 6 外来部門診療順番表示システム運用開始
15. 7 電子レセプト導入
15. 9 スレイマニア教育病院（イラク・クルド人自治区）との医療技術支援事業に関する合意議定書調印式
15. 10 神経内科を標榜
15. 10 アソシエート救護倉庫建築工事竣工
16. 2 熊本県小児救急医療拠点病院の指定
16. 2 日本赤十字社「重症急性呼吸器症候群（SARS）拠点病院」の指定
16. 4 ERU資機材を整備
16. 6 院内画像フィルムレス運用開始
16. 7 紹介患者外来診療予約システム運用開始
16. 10 院内全館禁煙の施行
16. 10 新潟県中越地震に対する医療救護を展開（10月25日～11月26日）
18. 4 医療連携室を開設
18. 4 歯科口腔外科を標榜
18. 4 総合血管センター（バスキュラーラボ）を開設
18. 6 医療安全推進室を設置
18. 7 DPC（診断群分類別包括評価制度）を導入
18. 10 セカンドオピニオン外来を開設
18. 12 ブラキセラピー（前立腺がんに対する小線源療法）稼動
19. 4 熊本県地域周産期母子医療センターの認定
19. 4 教育研修推進室を設置
19. 12 全館指静脈生体認証方式の運用開始
20. 2 地域がん診療連携拠点病院の指定
20. 7 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を洞爺湖サミット救護のため北海道に派遣

- 21. 3 電子カルテシステム、生理検査部門システム運用開始
- 21. 3 太陽光発電システム設置
- 21. 4 形成外科を標榜
- 21. 7 がん診療連携外来を開設
- 21. 9 総合鏡視下手術センターを開設
- 21. 11 紹介患者連携システム運用開始
- 22. 11 地域医療支援病院の指定
- 23. 3 東日本大震災に対する医療救護を宮城県石巻市を中心に展開（3月11日～5月31日）
- 23. 4 院内情報表示システム（外来部門）を導入
- 23. 12 立体駐車場及び第二ヘリポート整備工事竣工
- 24. 1 NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定取得
- 24. 1 熊本県ドクターヘリ基地病院として運航開始
- 24. 4 熊本市の区制施行により東区長嶺南二丁目1番1号となる
- 24. 4 血液・腫瘍内科、乳腺内分泌外科、放射線治療科、救急科を標榜
呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、耳鼻いんこう科の名称変更
- 24. 5 こども医療センター・総合救命救急センター増改築工事竣工
- 24. 5 小児特例病床10床増床（490床）
- 24. 7 安全功労者総務大臣表彰
- 24. 9 こども医療センター全面オープン記念セミナー
赤十字広報特使 藤原紀香さんオープニングセミナー参加
- 25. 4 へき地医療支援センターを開設
- 25. 4 小児救命救急センターの指定
- 25. 4 熊本市救急ワークステーション運用開始
- 25. 6 精神腫瘍科を開設
- 25. 6 熊本県と災害医療コーディネーターの協定締結
- 25. 8 CT(320列)稼働開始
- 25. 9 病理診断科を標榜
- 26. 2 病院機能評価3rdGVer.1.0（機能種別：一般病院2）及び
付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（H26.5.2認定）
- 26. 4 総合診療科部を設置
- 26. 10 第50回日本赤十字社医学会総会 熊本開催
- 26. 11 救急集中治療病棟（ECU）1床減床（9→8床）
- 26. 12 地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネット立上げ
- 27. 1 空調熱源機（空冷チラー）、コージェネレーションシステム機器更新
- 27. 3 総合医療情報システム（電子カルテ）更新
- 27. 3 MRI(3テスラ)稼働開始
- 27. 4 外傷外科部、IVR科部を設置
- 27. 4 こども病棟2床減床(こども2階病棟30→29床、こども3階病棟20→19床)
- 27. 4 小児集中治療病棟（PICU）2床増床（6→8床）
- 27. 4 妊娠と薬外来を開設
- 27. 5 地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネットシステム運用開始
- 28. 1 NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新
- 28. 2 集中治療病棟、救急集中治療病棟（ICU16床）の統合
- 28. 3 職員病児・病後児保育室「ひだまり」開設
- 28. 4 熊本地震に対する医療救護を院内、南阿蘇村、西原村、益城町を中心に展開(4月14日～6月1日)
- 28. 4 リウマチ・膠原病内科部を設置
- 28. 7 日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」閉館
- 29. 2 院内保育所「オリーブ」竣工（平成29年4月1日開園）
- 29. 3 地震被害にかかる建物等復旧工事完了
- 29. 4 感染管理室を設置
- 29. 4 四肢外傷再建外科部を設置
- 29. 7 公式Facebookページを開設
- 30. 3 日本水大賞 厚生労働大臣賞受賞
平成30年7月豪雨災害に対する救護活動を広島県・岡山県で展開（7月10日～8月11日）
- 30. 10 患者サポートセンターを開設
- 30. 12 脳卒中センターを開設

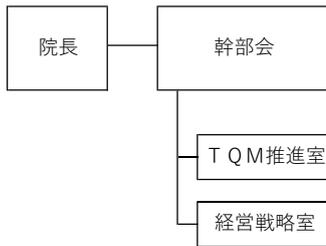
30. 12 熊本赤十字病院初の症例となる臓器提供を施行
30. 12 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入
30. 12 日赤キャンパス敷地内全面禁煙施行
31. 2 病院機能評価3rdGVer.2.0（機能種別：一般病院2）及び
31. 3 付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（R1.5.2認定）
31. 4 トータル・クオリティ・マネジメント（TQM）推進室を設置
移植医療支援室を設置
腎臓内科、リウマチ科、糖尿病内科、呼吸器外科を標榜
脳神経内科を名称変更
- 令和 元. 8 九州北部豪雨災害に対する救護活動を佐賀県で展開（8月29日～8月30日）
- 元. 11 卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新（4年）
- 元. 11 就業管理システム本稼動
- 元. 12 ハイブリッド手術室運用開始
2. 2 新型コロナウイルス感染症対策会議設置
2. 4 心血管カテーテル治療科部、小児集中治療科部、第二心臓血管外科部、
第二小児外科部を設置
重症外傷センター、心・大血管センター、熱傷センター、内視鏡センターを設置
ME（MedicalEngineer）からCE（ClinicalEngineer）に名称変更
新設 脳卒中集中治療病棟（S C U）15床
増床 救急1階病棟（6→10床）、4階西病棟（40→44床）
減床 こども2階病棟（29床→23床）、こども3階病棟（19→17床）、
5階西病棟（46→31床）
新型コロナウイルス感染症対策本部設置
2. 5 熊本赤十字病院公式YouTubeチャンネルの開設
1.5TMRI装置「MAGNETOMsola」稼動開始
2. 7 令和2年豪雨災害に対する救護活動を展開（人吉・球磨地域、芦北・水俣地域）
（7月4日～8月28日）
2. 10 ISO15189の認定施設取得
3. 2 特定行為研修指定研修機関指定（救急領域）
3. 4 脳神経・外傷外科部、リハビリテーション科部第三理学療法係、心臓血管麻酔科部、
総務課医療調整係、医療社会事業課病床管理係を設置
緩和ケアセンターを設置
3. 5 F C医療車共同実証開始セレモニー
3. 8 外来化学療法室の増床（14→22床）
3. 11 保険証等のオンライン資格確認開始
4. 1 熊本赤十字病院公式インスタグラム開始
4. 1 リウマチ科外来移設
4. 1 熊本県からドクターヘリ運航10周年の感謝状を授与
4. 4 第三循環器内科部、不整脈治療科部、
リハビリテーション科部 第二リハビリテーション課、
検体検査課 輸血・移植検査係、生理検査課 心血管カテーテル検査係、
企画開発課 経営企画係を設置
経営戦略室を設置
4. 7 臨床工学課 臨床工学係を設置
4. 10 D X推進委員会を設置
4. 11 がん集学的治療センターを設置

(2) センター・室 機能構成図



(3) 院内各種委員会

令和5年4月1日現在



部門	委員会名	委員長	事務局
1) 中央診療部門	1 手術室運営委員会	荒金 太	診療支援課
	2 救命救急センター運営委員会	奥本 克己	救急業務課
	3 外来運営検討委員会	角田 隆輔	外来業務課
	4 将来構想委員会	荒金 太	企画開発課
	5 高難度新規医療技術評価委員会	角田 隆輔	企画開発課
2) 購入関連部門	6 医療機器購入委員会	荒金 太	購入管理課
	7 診療材料購入審査委員会	荒金 太	購入管理課
3) 病床管理部門	8 病床管理委員会	宮本 和彦	医療社会事業課
	9 DPC検討委員会	横溝 博	入院業務課
	10 保険診療審議委員会	鈴木 龍介	外来業務課
	11 診療録等管理委員会	宮本 和彦	診療支援課
4) 医療機能連携部門	12 クリティカルパス委員会	寺崎 修司	診療支援課
	13 がん診療検討委員会	采田 志麻	診療支援課
	14 医療機能連携推進委員会	宮本 和彦	地域医療推進課
	15 地域医療支援病院運営委員会	平田 稔彦	地域医療推進課
	16 保護事案検討委員会	山家 純一	医療社会事業課
5) 医療安全部門	17 メディカルセーフティマネジメント委員会	角田 隆輔	医療安全推進室
	18 医療安全対策委員会	角田 隆輔	医療安全推進室
	19 感染対策委員会	加島 雅之	器材管理課
	20 輸血療法委員会	采田 志麻	検査部
	21 栄養管理委員会	吉野 雄一郎	栄養課
6) 教育研修推進部門	22 卒後臨床研修管理委員会	奥本 克己	教育研修推進課
	23 倫理委員会	竹熊 与志	診療支援課
	24 図書委員会	山家 純一	教育研修推進課
	25 コンピュータシステム検討委員会	宮本 和彦	企画開発課
	26 臨床治験審査委員会	荒金 太	薬剤部
	27 看護師特定行為研修管理委員会	竹熊 与志	教育研修推進課
7) 災害関連部門	28 国際活動検討委員会	岡村 直樹	国際医療救援部
	29 災害対応委員会	奥本 克己	救急業務課
8) 病院関連業務部門	30 個人情報保護委員会	森崎 勝利	総務課
	31 薬事委員会	陣上 祥子	薬剤部
	32 臨床検査適正化委員会	伊藤 彰彦	検査部
	33 防火・防災管理委員会	井ノ上 隆己	総務課
	34 医療ガス安全管理委員会	佐土原 友弘	総務課
	35 安全衛生委員会	森崎 勝利	人事課
	36 放射線安全委員会	菅原 丈志	総務課
	37 放射線治療品質管理委員会	菅原 丈志	総務課
	38 働き方改革推進委員会	竹熊 与志	人事課
	39 補助人工心臓装着適応検討委員会	寺崎 修司	診療支援課
	40 患者サービス検討委員会	井ノ上 隆己	外来業務課
	41 DX推進委員会	長谷川 秀	企画開発課

(4) 部門別職員数

令和5年4月1日現在

【正職員】

職 種 別	現員(人)
一般職(一)	
事務部	173
治験コーディネーター	1
一般職(二)	
技術職員	14
看護助手	18
調理師	17
医療職(一)	
医師	133
医療職(二)	
診療放射線技師	31
臨床検査技師	57
薬剤師	32
理学療法士	17
作業療法士	9
言語聴覚士	7
歯科衛生士	1
管理栄養士	12
視能訓練士	2
臨床工学技士	29
公認心理師	2
はり師	1
医療職(三)	
看護師	662
助産師	36
福祉職	
保育士	1
合計	1,255

【嘱託及び臨時職員等】

種 別	現員(人)	内 訳					
		嘱託	臨時	パート	再雇用 職員	非常勤	その他
医師	156	85				66	5
歯科医師	3					3	
診療放射線技師	1				1		
臨床検査技師	2	1	1				
臨床工学技士	1		1				
薬剤師	2			2			
理学療法士	1				1		
言語聴覚士	1			1			
歯科衛生士	1			1			
管理栄養士	1				1		
看護師	38	19	8	8	2	1	
保育士	1	1					
事務	46	29	7	9	1		
医療社会事業課	9	2	3	4			
受付事務	2			2			
メディカルサプライヤー	10	10					
技術職員	0						
放射線科助手	0						
リハビリテーション科助手	1		1				
薬剤助手	8	8					
C E 助手	2	1	1				
看護助手	58	51	1	4	2		
調理師(栄養課)	12	10		2			
調理師(職員食堂)	2	2					
洗浄員(栄養課)	11			11			
洗浄員(職員食堂)	12			12			
清掃員	0						
合計	381	219	23	56	8	70	5

(2) 診療科別患者数前年度対比表

(単位：人)

診療科	年度	令和4年度		令和3年度		対前年度比 増 減
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	
内 科	入院	21,508	58.9	22,195	60.8	△ 687
	外来	27,776	114.8	25,595	105.8	2,181
腎 臓 内 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	17,376	71.8	19,009	78.5	△ 1,633
リウマチ科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	8,868	36.6	7,693	31.8	1,175
血液・腫瘍内科	入院	9,271	25.4	8,764	24.0	507
	外来	16,155	66.8	15,340	63.4	815
精神腫瘍科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	416	1.7	615	2.5	△ 199
脳神経内科	入院	12,106	33.2	11,880	32.5	226
	外来	5,535	22.9	5,464	22.6	71
呼吸器内科	入院	6,290	17.2	6,042	16.6	248
	外来	6,985	28.9	6,928	28.6	57
消化器内科	入院	15,439	42.3	14,534	39.8	905
	外来	17,874	73.9	17,733	73.3	141
循環器内科	入院	12,007	32.9	11,128	30.5	879
	外来	13,819	57.1	13,607	56.2	212
小 児 科	入院	7,779	21.3	8,869	24.3	△ 1,090
	外来	27,070	111.9	24,452	101.0	2,618
外 科	入院	12,224	33.5	14,121	38.7	△ 1,897
	外来	8,146	33.7	8,328	34.4	△ 182
呼吸器外科	入院	803	2.2	802	2.2	1
	外来	696	2.9	653	2.7	43
乳腺内分泌外科	入院	675	1.8	991	2.7	△ 316
	外来	5,905	24.4	5,961	24.6	△ 56
整形外科	入院	12,812	35.1	12,389	33.9	423
	外来	15,768	65.2	15,700	64.9	68
脳神経外科	入院	9,556	26.2	8,793	24.1	763
	外来	5,925	24.5	5,887	24.3	38
心臓血管外科	入院	5,689	15.6	6,573	18.0	△ 884
	外来	4,758	19.7	4,452	18.4	306
小 児 外 科	入院	724	2.0	854	2.3	△ 130
	外来	2,410	10.0	2,619	10.8	△ 209
形成外科	入院	1,662	4.6	2,213	6.1	△ 551
	外来	5,340	22.1	5,611	23.2	△ 271
皮 膚 科	入院	1,415	3.9	1,740	4.8	△ 325
	外来	8,699	35.9	8,149	33.7	550
泌 尿 器 科	入院	607	1.7	1,142	3.1	△ 535
	外来	7,025	29.0	7,751	32.0	△ 726
産 婦 人 科	入院	9,087	24.9	8,604	23.6	483
	外来	17,070	70.5	15,730	65.0	1,340
眼 科	入院	340	0.9	705	1.9	△ 365
	外来	5,116	21.1	5,944	24.6	△ 828
耳鼻いんこう科	入院	3,938	10.8	3,928	10.8	10
	外来	10,414	43.0	10,500	43.4	△ 86
リハビリテーション科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	355	1.5	523	2.2	△ 168
放 射 線 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	431	1.8	447	1.8	△ 16
放 射 線 治 療 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	1,314	5.4	3,021	12.5	△ 1,707
麻 酔 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	974	4.0	1,097	4.5	△ 123
歯 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	1,616	6.7	1,828	7.6	△ 212
救 急 科	入院	1,888	5.2	2,553	7.0	△ 665
	外来	0	0.0	0	0.0	0
合 計	入院	145,820	399.5	148,820	407.7	△ 3,000
	外来	243,836	1,007.6	240,637	994.4	3,199

※糖尿病内科の延患者数は内科に含む。

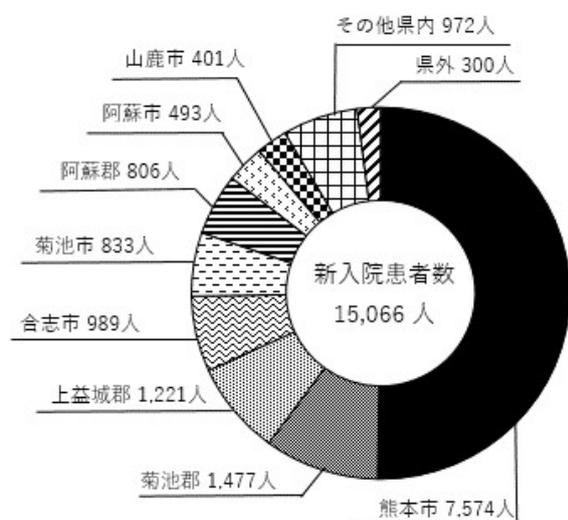
(3) 入院及び外来患者数等

		令和4年度	令和3年度	対前年度増減
入院	病床数(床)	490	490	0
	病床延数(床)	178,850	178,850	0
	新入院患者数(人)	15,066	15,794	△728
	患者延数(人)	145,820	148,820	△3,000
	1日平均患者数(人)	399.5	407.7	△8.2
	病床利用率(%)	81.5	83.2	△1.7
	平均在院日数(日)	9.7(10.3)	9.4(10.0)	0.3(0.3)
	病床回転数(回)	37.7	38.8	△1.1
	1人1日当たり診療単価(円)	98,612	94,567	4,045
外来	新患者延数(人)	55,224	52,323	2,901
	再来患者延数(人)	188,612	188,314	298
	患者延数(人)	243,836	240,637	3,199
	1日平均患者数(人)	1,003.4	994.4	9.0
	平均通院日数(日)	4.4	4.6	△0.2
	1人1日当たり診療単価(円)	25,338	25,689	△351
紹介患者数(人)		13,650	14,375	△725
逆紹介患者数(人)		17,462	16,192	1,270
紹介率(%)		54.7	59.1	△4.4
地域医療支援病院紹介率(%)		81.4	83.7	△2.3
地域医療支援病院逆紹介率(%)		104.1	94.3	9.8

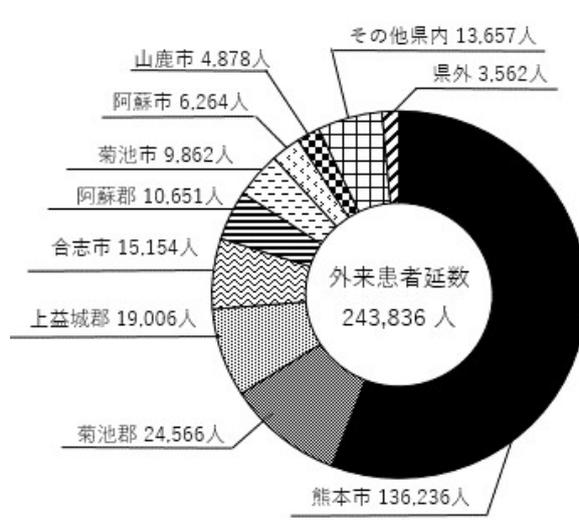
※平均在院日数()内は短期滞手術料対象患者・特定入院料算定患者の一部・自費患者を除いた値

(4) 診療圏別入院・外来患者数(年計)

(新入院患者数)



(外来患者延数)



(5) 手術件数、検査件数等

		令和4年度	令和3年度	対前年度増減
手術部門	手術件数	5,170	5,822	△ 652
	再掲) 全麻	4,452	4,887	△ 435
	再掲) 局麻	718	935	△ 217
	鏡視下(再掲)	1,705	1,912	△ 207
	カテ室手術件数	1,458	1,431	27
	主な外来手術	1,207	1,493	△ 286
	ペインクリニック	923	1,046	△ 123
診療部	外来化学療法数	5,477	5,249	228
	治験実施件数	279	280	△ 1
	分娩件数	205	179	26
	腎移植件数	16	21	△ 5
	人工透析 外来	9,026	10,150	△ 1,124
	入院	4,606	4,551	55
	高気圧酸素療法	384	536	△ 152
チーム医療	呼吸器ケア対象数	125	100	25
	ICT巡回対象数	155	173	△ 18
	感染症巡回対象数	1,284	925	359
	褥瘡ハイリスク件数	1,550	1,411	139
	NST対象者数	620	629	△ 9
	摂食機能療法	885	846	39
薬剤部門	調剤数 外来	96,163	98,229	△ 2,066
	入院	135,008	137,061	△ 2,053
	調剤延数 外来	1,062,248	1,134,228	△ 71,980
	入院	779,913	810,355	△ 30,442
	薬剤管理指導件数	17,743	19,265	△ 1,522
放射線科 部門	一般撮影件数	66,078	69,050	△ 2,972
	CT撮影件数	25,448	25,519	△ 71
	MRI件数	10,560	10,463	97
	血管造影件数	1,898	2,039	△ 141
	内視鏡件数	7,714	8,003	△ 289
	RI件数	713	656	57
	体外結石破砕件数	17	9	8
	ライナック件数	6,255	8,357	△ 2,102
	ブラキセラピー件数	4	6	△ 2
検査部門	検体検査件数	2,875,107	2,906,993	△ 31,886
	生理検査件数	57,456	59,270	△ 1,814
	病理検査件数	12,691	15,426	△ 2,735
栄養部門	栄養指導件数	1,865	1,340	525
リハビリ テーション部門	理学療法延数	25,820	25,661	159
	作業療法延数	15,176	14,698	478
	心臓リハ延数	7,368	7,689	△ 321
	言語聴覚療法延数	11,836	11,435	401

※手術件数のうち「全麻」には硬膜外麻酔、脊椎麻酔を含む。また「局麻」には静脈麻酔、伝達麻酔等を含む。

(6) がん治療実績

① がん患者数

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
年間がん入院患者数（実数）	2,396	2,611	2,662
年間がん外来患者数（延数）	65,880	65,694	64,920
年間部位別がん入院患者手術件数	955	1,067	1,051

※年間がん外来患者数（延数）…集計定義の変更に伴い、令和2年度・令和3年度の数値を修正

② 部位別がん患者入院件数（上位10部位）

順位	部位名	件数
1	気管支及び肺	293
2	結腸	192
3	胃	191
4	膵臓	182
5	非ホジキンリンパ腫	168
6	子宮	153
7	胆のう・胆管	148
8	乳房	116
9	直腸および肛門	82
9	卵巣	82

③ 部位別がん入院患者手術件数（上位10部位）※内視鏡手術は含まない

順位	部位名	件数
1	結腸	147
2	乳房	96
3	子宮	92
4	気管支及び肺	89
5	子宮頸部の上皮内癌	68
6	直腸および肛門	63
7	膀胱	46
8	胃	44
9	卵巣	40
10	膵臓	39

(7) 救命救急センター

救命救急センターの基本理念

『断らない救急』

救命救急センター理念に基づく基本方針

Anyone	子どもからお年寄りまで	軽症者から重症者まで
Anything	診療科を問わずどんな疾患も	
Anytime	24時間365日	平時から災害時まで

① 搬送別救急患者数

	救急車等（消防機関）		病院車	ドクターカー	ドクターヘリ	その他	合計
	救急車	防災ヘリ					
令和4年度	7,627	21	362	51	581	41,360	50,002
	15.3%	0.0%	0.7%	0.1%	1.2%	79.9%	100%
令和3年度	7,538	10	388	53	540	33,823	42,352
	17.8%	0.0%	0.9%	0.1%	1.3%	79.8%	100%
令和2年度	6,505	12	356	66	494	30,452	37,885
	17.1%	0.0%	0.9%	0.2%	1.3%	80.3%	100%

② 重症度別救急患者数

(単位：人)

	一 次	二 次	三 次	再掲/CPA	合 計
令和4年度	41,711	5,609	2,682	296	50,002
	83.4%	11.2%	5.4%		100%
令和3年度	34,099	5,571	2,682	271	42,352
	80.5%	13.2%	6.3%		100%
令和2年度	29,965	5,357	2,563	238	37,885
	79.1%	14.1%	6.8%		100%

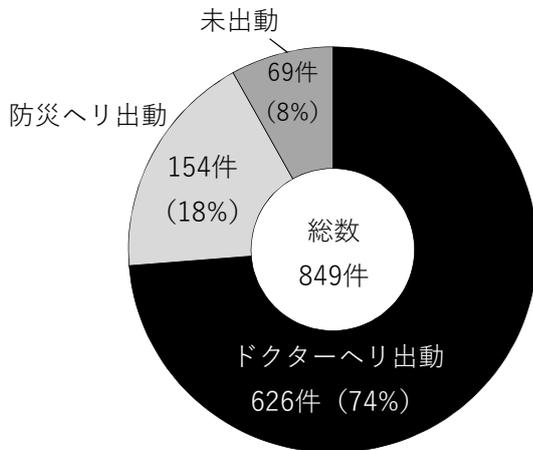
③ 即日入院患者

(単位：人)

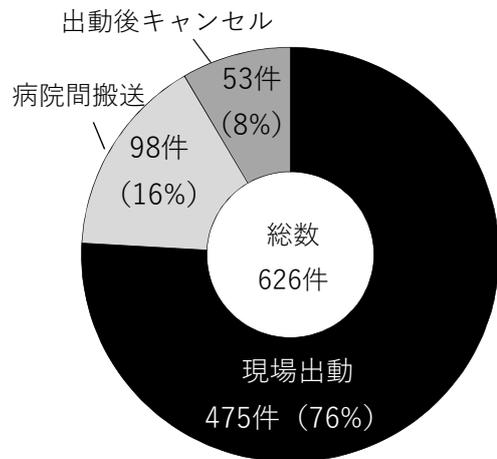
	総患者数	即日入院 (再掲)	総患者数に 対する入院の割合
令和4年度	50,002	7,860	15.7%
令和3年度	42,352	7,843	18.5%
令和2年度	37,885	7,584	20.0%

④ 熊本県ドクターヘリ実績

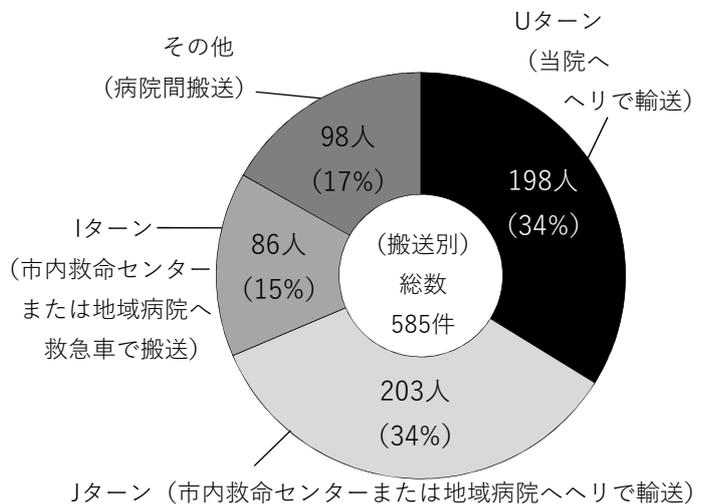
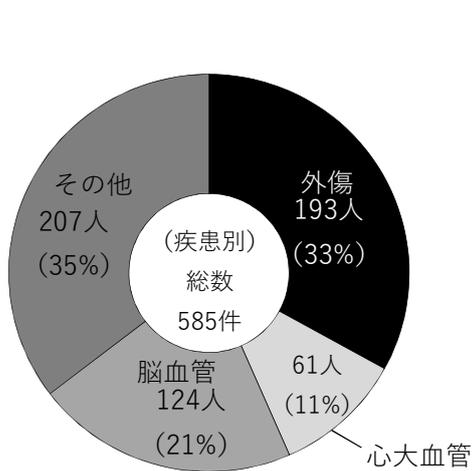
ドクターヘリ、防災ヘリ要請



ドクターヘリ出動(要請内容別)

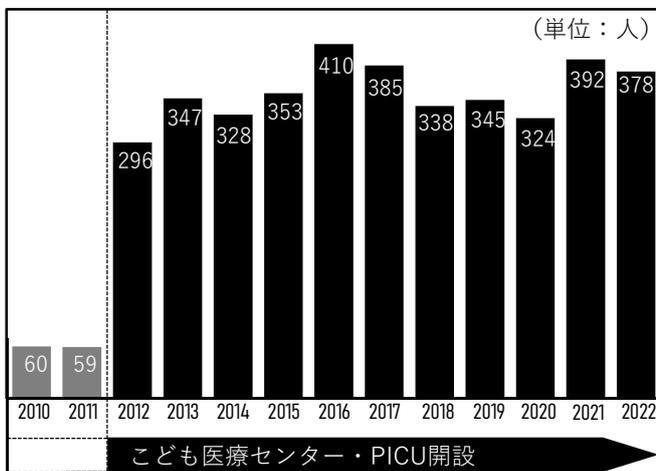


ドクターヘリ搬送患者数(現場救急・病院間搬送)

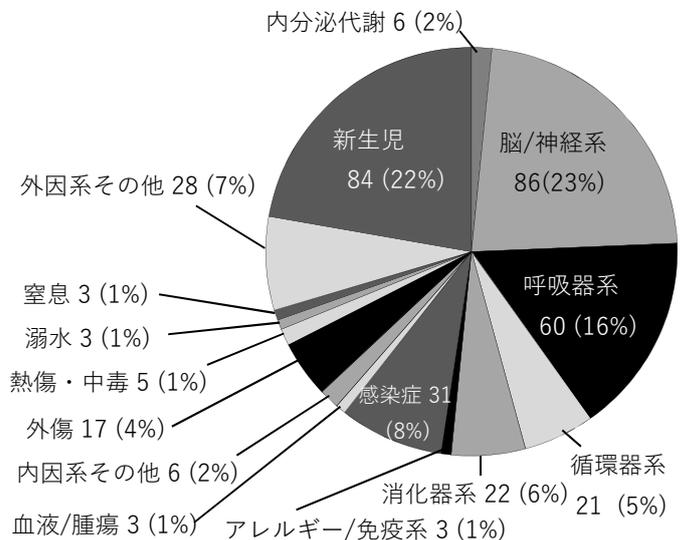


⑤ PICU (小児集中治療室) 実績

PICU (小児集中治療室) 入室患者疾患数推移



PICU入室患者疾患内訳



(8) 医療救援<国際活動>

①派遣国別人数

年代	派遣国	事業名	人数
昭和55年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	5名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
昭和57年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	4名
昭和59年	エチオピア連邦民主共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和60年	スーダン共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和62年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
昭和63年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
昭和64年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	1名
平成元年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
平成2年	ソビエト社会主義共和国連邦	地震被災者復興事業	1名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
平成3年	ケニア共和国	ケニア紛争犠牲者救援事業	1名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
平成4年	シリア・アラブ共和国	湾岸戦争避難民救援事業	2名
平成5年	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
	カンボジア王国	医療協力事業	2名
平成6年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	3名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	2名
平成7年	ザイール共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
平成8年	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	ケニア共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
平成10年	ルワンダ共和国	ザイール東部紛争犠牲者救援事業	1名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン北東部地震被災者救援事業	1名
平成11年	スーダン共和国	スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	アルバニア共和国	アルバニア・コソボ難民救援事業	1名
平成12年	トルコ共和国	トルコ地震被災者救援事業	1名
	中華人民共和国 台湾	台湾地震被災者救援事業	4名
平成13年	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	2名
	インドネシア共和国	スマトラ島ベンガル沖地震被災者救援事業	1名
平成14年	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	エルサルバドル共和国	地震被災者救援事業	1名
平成15年	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	インド	インド西部地震被災者救援事業	9名
平成16年	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	ペルー共和国	地震被害調査	2名
平成17年	シエラレオネ共和国	シエラレオネ紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
平成18年	アフガニスタン共和国	アフガニスタン地震被災者救援事業	7名
	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	1名
平成19年	リベリア共和国	リベリア紛争犠牲者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成20年	イラン共和国	イラク人道危機関連調査	2名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
平成21年	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	4名
	タンザニア共和国	タンザニア難民支援事業	1名
平成22年	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成23年	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	4名
	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	1名
平成24年	イラン共和国	イラン南東部地震被災者救援事業	6名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成25年	インドネシア共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	20名
	パキスタン共和国	パキスタン地震被災者救援事業	9名
平成26年	インドネシア共和国	ジャワ島中部地震被災者救援事業	2名
	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
平成27年	ケニア共和国	ケニア共和国洪水災害救援事業	1名
	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
平成28年	スリランカ民主社会主義共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	10名
平成29年	ミャンマー連邦共和国	サイクロン被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	8名
平成30年	イラン共和国	在外邦人救急法等普及事業調査	6名
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	6名
平成31年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	3名

5 業務の現況

年代	派遣国	事業名	人数
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	1名
	中華人民共和国 香港	基礎ERU研修会開催協力	6名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	6名
	パキスタン共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成22年	ハイチ共和国	ハイチ大地震救援事業	9名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
	チリ共和国	チリ地震被災者救援事業	3名
平成23年	ハイチ共和国	コレラ罹患者救援事業	5名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
平成24年	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	ウガンダ共和国	ウガンダ北部地区病院支援事業	1名
	イラク共和国	クルド地域医療市場調査班	2名
平成25年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	5名
	フィリピン共和国	基礎保健RDフィリピン南部台風災害救援事業	2名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	フィリピン共和国	世界保健機構 (WHO)西太平洋事務局派遣	1名
	ニカラグア共和国	JICAインターンシッププログラム	1名
	フィリピン共和国	フィリピン中部台風救援事業	4名
平成26年	シエラレオネ共和国	母子保健医療支援調査事業	2名
	レバノン共和国	シリア難民救援現地調査	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	ヨルダン・ハシミテ王国	シリア難民救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	ハイチ共和国	ハイチ地震被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン台風救援事業	1名
平成27年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	ネパール地震被災者救援事業	7名
平成28年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
平成29年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	2名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	7名
平成30年	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	3名
	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン・イスラム共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成31年	ヨルダン・ハシミテ王国	中東地域紛争犠牲者支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	ナイジェリア連邦共和国	ナイジェリア紛争犠牲者支援事業	1名
令和2年	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
令和3年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
令和4年	シエラレオネ共和国	シエラレオネ・中央こども病院サービス向上プロジェクト	2名
合 計			294名

②職種別派遣者数 (派遣事業)

(単位：人)

	令和4年度	令和3年度まで	計
医師	0	128	128
看護師・助産師	1	75	76
薬剤師	0	3	3
放射線技師	0	20	20
事務・技術職	1	66	67
合計	2	292	294

③派遣者一覧

派遣先	事業名	派遣者（職種・氏名）	
シエラレオネ共和国	シエラレオネ・中央こども病院サービス向上プロジェクト	看護師	今村 尚美
		臨床工学技士	黒田 彰紀

④シエラレオネ・中央こども病院サービス向上プロジェクト

2021年10月、国際協力機構（JICA）はシエラレオネ共和国政府との間で技術協力プロジェクト「中央こども病院サービス向上プロジェクト」の実施に向けた合意書を締結した。

医療機器管理に関する国際赤十字・赤新月社連盟とJICAとの包括協力協定に基づき、熊本赤十字病院は、看護管理、実務能力の改善にかかるプロジェクト計画の策定を支援すべく、看護師、臨床工学技士を派遣（「③派遣者一覧」に記載）した。また、詳細計画策定にかかる調査団に事務職員1名が同行した。

⑤保健医療ERU研修・中国紅十字会香港支部主催Health ERU研修への参加

国際赤十字保健医療緊急対応ユニット（Health ERU）は、自然災害や紛争による大規模人口移動の際に国際赤十字が動員する緊急救援要員と野外医療施設資機材からなる国際医療救援チームである。

令和4年度は、救援要員を養成し、登録するためのERU研修を熊本県で開催し、熊本赤十字病院から医師1名及び助産師1名、香港で開催されたERU研修に看護師1名が参加した。

(1) 保健医療ERU研修受講者

開催地	所属	派遣者（職種・氏名）	
熊本県阿蘇郡南阿蘇村	外傷外科部	医師	佐々木 妙子
	看護部	助産師	赤星 理子

(2) 中国紅十字会香港支部主催Health ERU

開催地	所属	派遣者（職種・氏名）	
香港	看護部	看護師	井芹 有希

⑥災害救援技術の研究開発

熊本赤十字病院は、日本赤十字社が国内外の災害対応で得た知見を学術的に分析・集約して社会に還元し、新たな知見や技術を積極的に災害救援に活用するための調査研究を行うために発足した日本赤十字看護大学附属災害救護研究所（以下、「日赤救護研」）への協力を進めている。

令和4年11月には、日赤救護研、株式会社Agoopと連携し、北海道花咲港地域で内閣府が開催した津波避難訓練の一環としてスマートフォンの位置情報を用いたリアルタイムの避難状況把握に関する日本初の技術実証を行なった。この実証に関する記事は、各国赤十字・赤新月社による先進的な取り組みを紹介する国際赤十字社会イノベーション・ネットワーク「RED Social Innovation」のホームページに掲載された。

(9) 移植医療推進活動状況

①人材育成

医療従事者の知識向上を目的とした講演会の開催、並びに院外の複数医療機関と連携を取りながら、医療機関同士での質の向上に取り組んでいる。

②患者対応

患者（家族を含む）からの移植医療（臓器提供・臓器移植）に関する相談をはじめ、「意思表示の有無」等の情報収集や臓器提供に関わる関係者および臓器提供者の家族との連絡調整等を行っている。

③院内の体制整備

定期的に多職種で集合し、活動報告や症例検討を重ね、緊急症例に対応できるようシミュレーションも行っている。

④普及啓発活動状況

毎年、熊本県腎移植者の会が主催する「黄色い羽根募金活動」および、熊本県移植医療推進財団の賛助会員募集に協力し、移植医療の普及啓発に努めている。

(10) 腎移植診療

当院では、1988年から腎移植診療を開始し、これまでに400例以上の腎移植を実施している。

近年、腎移植を希望される方が増加しており、当院ではより質の高いチーム医療の実践を目指し、複数の診療科（外科、総合内科、腎臓内科、泌尿器科、産婦人科、小児科、麻酔科など）と移植コーディネーターを中心とした多職種（薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職員など）でチームを構成し、密接に情報共有を行いながら毎月2～3例の腎移植を実践している。

また、ハイリスク症例にも積極的に取り組み、A B O血液型不適合腎移植、抗HLA抗体陽性腎移植、二次移植などを行っている。

2019年度には総合医局内に移植医療支援室を設け、「臓器を提供する側」と「臓器を移植する側」双方への支援を行いながら院内の連携強化・体制整備を図った。

今後も移植医療の推進のために院内外に向けて情報発信を行っていく。

(11) 慢性疾患児家族宿泊施設（アンリーハウス）利用状況

アンリーハウスは、慢性疾患児の付添い家族の宿泊に伴う経済的負担と、入院児童の情緒不安を解消することを目的として、平成11年に国の補助金を受けて建設。鉄筋コンクリート造、2階建て、トイレ・バス完備で部屋数は5部屋。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用部屋数	137	177	194
稼働率	7.5%	9.7%	10.6%
小児利用部屋数（再掲）	53	101	161
小児利用率	38.7%	57.1%	83.0%

※1名1室 1,100円（税込）

2名1室 1,320円（税込）

6 施設概要

令和5年4月1日現在

(1) 概 観

- ① 所在地 熊本市東区長嶺南二丁目1番1号
- ② 敷地面積 63,284.98㎡
- 建築面積 18,704.17㎡
- 延床面積 70,617.00㎡

病院本館棟	SRC造 地下1階・地上9階・PF1階	42,914.86 ㎡
管理棟	RC造 地上2階	2,899.88 ㎡
エネルギー棟	RC造 地下1階・地上2階	2,089.35 ㎡
救急棟	SRC造 地下1階・地上6階	13,154.08 ㎡
立体駐車場	S造 地上5階	8,470.13 ㎡
附属施設		1,088.70 ㎡

- ③ 駐車台数 562台（来院者用）

(2) 特 徴

< 診療機能 >

新生児から高齢者まで緊急度・重症度の高い症例も対応可能な「総合救命救急センター」・「こども医療センター」を併設。集中治療室「ICU・G-ICU・SCU（脳卒中集中治療室）・PICU（小児集中治療室）」を整備。

がんの治療・診断を主眼に高度医療機器（MRI・CT一体型ライナック・320列マルチスライスCT・CRシステム他）を配備した「画像診断治療センター」、手術支援ロボット「ダヴィンチ」、ハイブリッド手術室を有する回収廊下方式の手術室（11室）の設置。

< 情報管理 >

総合医療情報システム（電子カルテ）、「医療情報管理センター」による医療情報の一元化。物流システム（SPD）導入による効率的かつ迅速な薬品・物品管理供給体制。医療社会事業部、地域医療推進課の設置、地域連携システムの導入などにより、地域の医療機関との情報交換を推進。

< 防災対策 >

県下の基幹災害拠点病院として、耐震構造の強化（基準の25%増）。ヘリポートの設置、大規模災害時の大量被災者収容のため外来待合ホール、救急待合ホール、多目的ホールに医療ガス管の配備、また自家発電装置、災害備蓄倉庫（本館地階、500㎡強）、大型受水槽増設によりライフラインの確保。

ヘリポート（ドクターヘリ離発着、重篤患者受入、常備救護班搬送）

	第1ヘリポート(本館)	第2ヘリポート(立体駐車場)
離着帯の種類	飛行場外離着陸場 (BK117C-2)	飛行場外離着陸場 (BK117C-2)
着陸帯の強度	5.4 t まで	11.0 t まで
着陸帯の面積	225 ㎡	605.1 ㎡
備 考		各種指示灯を装備し、 夜間の離発着も可能。

<療養環境>

入院部門：

室料差額個室124床、重症加算対象個室12床、多床室は1室3床又は4床。
全室にトイレ、洗面台、個人用ロッカー設置。各ベッドにはテレビ、冷蔵庫、床頭台を常備。

外来部門：

各診療科のブロック配置。患者への情報提供として外来情報表示システム。
個人情報保護を目的とする患者番号呼び出しシステム。
マイナンバーカードの保険証利用のマイナ受付設置。

(3) 施設設備

<水>

飲料水は熊本市から供給を受けている。平成21年3月には災害対応用として受水槽2槽（187 t）を追加設置、合計4槽で353.2 tの貯水が可能である。

また、井水は、井戸2本から空調用、トイレの洗浄水用として、受水槽2槽で合計290 tの貯水が可能であり、外部からの供給がない場合でも、節水対応により使用量約3日分の水を確保している。

	用途	貯水量
市水	飲料水等	4槽 合計353.2 t
井水	空調用、トイレ洗浄水等	2槽 合計290 t

<電力>

電力事業者から6,600 V本線と予備線の2回線受電により、本線が停電しても予備線からの受電が可能である。

また、2回線とも停電した場合は、非常用発電機6基、ガスコージェネ発電機2基により、災害等の非常時にも継続して電力を供給することが可能である。備蓄する燃料量から約3日間の稼動が可能である。

発電容量	① 本館	② 救急棟	③ 立体駐車場
	800 kW 1基、400 kW 1基、28.8 kW 1基 コージェネ発電機400 kW 2基	800 kW 1基、208 kW 1基	84 kW 1基

<太陽光発電システム>

大規模災害対応と環境への貢献を主眼とし、平成21年3月に太陽光発電システムを導入。本館西病棟屋上、管理棟屋上、外来駐車場に太陽光電池パネルを設置。さらに平成24年5月には救急棟屋上への追加設置により、合計1,476枚のパネルで308 kWの発電能力を有する。

災害時にライフラインがストップした場合でも、避難所で使用する通信機器や夜間照明用電源などの最低限のエネルギー確保が可能。

環境への貢献としては、1年間で原油換算節減は約9.8万リットル（ドラム缶約493本分）CO₂の削減量は約73.9トン、森林面積に換算すると約62haとなり、これは標準世帯の約74世帯分に相当する。

①用途

施設内照明、空調等

②太陽電池容量

308kW（208.4W×1476枚）

- ・本館西病棟屋上 95kW（208.4W×456枚）
- ・本館北西側屋上 30kW（208.4W×143枚）
- ・管理棟屋上 90kW（208.4W×434枚）
- ・外来駐車場 33kW（208.4W×155枚）
- ・救急棟屋上 60kW（208.4W×288枚）

③太陽電池種類

多結晶シリコン

(4) 施設配置表

令和5年4月1日現在

<本館>

	西 病 棟	東 病 棟
屋上		第1ヘリポート
8階	国際医療救援部、社会課、会議室、電話交換室、ボランティア室、がん相談支援センター、企画開発課IT係、サーバー室	内科、呼吸器内科、皮膚科
7階	内科、消化器内科	外科、内科、消化器内科
	院内デイケア ひまわり	
6階	循環器内科、心臓血管外科、内科、脳神経内科	泌尿器科、耳鼻いんこう科、外科
	心大血管リハビリテーション室	
5階	脳卒中センター、脳神経外科、脳神経内科、脳卒中集中治療病棟(SCU)	整形外科、形成外科
	病棟リハビリステーション	
4階	眼科、消化器内科、血液・腫瘍内科	産婦人科、LDR、新生児室
3階	救命救急病棟(G-ICU)	集中治療病棟(ICU)
	腎センター(人工透析室)、検体検査センター、手術センター	
	臨床工学課、病理診断科部など	
2階	外来(循環器内科、心臓血管外科、総合血管センター、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、泌尿器科、産婦人科、リウマチ科)、総合リハビリテーション、総合処置室、	
	移植医療支援室、医療社会事業課、地域医療推進課、入院業務課、診療支援課、	
	企画開発課、経営戦略室、広報室、図書室、購入管理課、器材管理課、栄養課、	
	栄養指導室、薬剤部、管理部門(会議室、電カル室、医局、更衣室、職員食堂)など	
1階	外来(眼科、耳鼻いんこう科、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、	
	内科、腎臓内科、糖尿病内科、整形外科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、	
	皮膚科、形成外科、血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、小児科、小児外科)、	
	総合処置室、点滴室、外来化学療法センター、緩和ケアセンター、生理検査センター、	
	内視鏡センター、画像診断治療センター(放射線科、放射線治療科)、	
	外来業務課(初診、支払い窓口)、患者サポートセンター(入院・検査説明)、	
	相談室、薬局、解剖室など	
地階	災害備蓄倉庫、霊安室、荷捌き場、リネン室など	

<管理棟>

2階	人事課、総務課、会計課、医療安全推進室、感染管理室、教育研修推進室
1階	総合案内、面会受付、ショッピングモール、レストラン

<エネルギー棟>

2階	エネルギーセンター（電気室、コージェネ室、非常用発電機室）
	ハウスキーパー室
1階	防災センター（中央監視室）、熱源機械室
地階	廃棄物保管庫

<救急棟>

6階	電気室、発電機室
5階	研修・研究センター（総合シミュレーションルーム、視聴覚研修室、研修室）
4階	研修・研究センター（多目的ホール、研修ホール）
3階	こども医療センター（小児集中治療病棟（P I C U））
	（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科））
2階	こども医療センター（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科）、病児・病後児保育室）
1階	救命救急センター、救急1階病棟、救急業務課
地階	地下会議室、当直室

<立体駐車場>

5階	第2ヘリポート、運航管理室（CSルーム）、ヘリ格納庫
2～4階	来院者用駐車場
1階	来院者用駐車場、大型車駐車場、公用車駐車場、救援資機材用倉庫

赤十字基本原則

1965年ウィーンで開催された第20回赤十字国際会議決議

第20回赤十字国際会議は、赤十字の活動の基礎である次の基本的諸原則を宣言する。

人 道

赤十字は戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力および堅固な平和を助長する。

公 平

赤十字は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中 立

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独 立

赤十字は独立である。各国赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字の諸原則にしたがって行動できるようその自主性を保たなければならない。

奉 仕

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単 一

いかなる国にもただ一つの赤十字社しかありえない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世 界 性

赤十字は世界的機構であり、そのなかにおいてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。